HQ
1104
J74
1888
n.13

女學雜誌

一冊五錢

當府内無郵稅

版權所有

各土曜日出版

明治廿一年（第百參拾六號）十一月十七日發

社説 將來の和歌（其二）

論説 米國の女子（元良勇次郎）○女學雜誌記者に質問（朝陽外史）

批評 粹○淺瀬の波○婦女實業案内○女用消息文○懺悔文（美妙齋主人）○雜評

叢話 諺にして且つ利口なれ○女子看護法の心得（津田梅子）○伯爵夫人と藝妓○天の雲と大建築○憂苦の始めて來りし時○婦人衛生一斑（櫻井郁次郎）

小説 さすがに双紙○祈女の卷

佳傳 ゴルドン女史

寄書

新報

外報

小供談

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

HQ
1104
J741

1888
no. 136

The Woman's Magazine

女學雜誌

一冊五錢

當府内無郵税

版權所有

各土曜日出版

明治廿一年（第百參拾六號）十一月十七日發

社説
將來の和歌(其二)

論説
米國の女子(元良勇次郎)○女學雜誌記者に質問(朝陽外史)

批評
粹○淺瀬の波○婦女實業案内○女用消息文○懺悔文(美妙齋主人)○雜評

叢話
談にして且つ利口なれ○女子看護法の心得(津田梅子)○伯爵夫人と藝妓○天の雲と大建築○蚕苦の始めて來りし時○婦人衛生一斑(櫻井郁次郎)

小説
さすがに双紙○析女の卷

佳傳
ゴルドン女史

寄書

新報

外報

小供談

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 136. November 17th, 1888.

EDITORIAL:— Future Poetry of Japan(II).

LEADING ARTICLES:—Women of America, by Mr. Motora. PH. D. A Question asked of the Editor of the Woman's Magazine, by Chioyo Gaishi.

CRITICAL NOTES:— "The Essences." "A Letter of Repentance." "Miscellaneous Work."

MISCELLANIES:— "Be Good, and be Wise." "Hints about Nursing (Miss M. Tsuda)." "The Countess and the Singing-girl." "The Heavenly Cloud and the Great Edifice." "The Beginning of Sorrows." "Hygiene for Woman."

NOVELS:— "Sasugani." "Tetsujo no Maki."

BIOGRAPHIES:— Mrss Gordon.

CORRESPONDENCES.

FORAIGN NEWS.

通信女學の廣告

通信女學 第拾四卷 發兌

全し最良の教科書

内容の會員の事實に富めり

十月廿六日出版なり

定價一冊 金拾錢 郵税七厘 十冊 貳圓

●珊瑚の珠 （第八十六回）

四季曲

時しも有て君にあふみのかゝみ山猶いつまでも曇りなき影見ん事も長橋の渡り絶せぬ契とて春立きぬる衣手はさくら重ねに青柳のみどりのかみを梳けづりなびく姿は離ゆへとから紫のふじ波や「殊れる花のおのづからうすかとりの衣〳〵のおどろかさるゝ一聲に川けのまくらの時鳥大空は月も秋なり下の葉の照るそふ影にうたはしてよしありけなる舞人の袖打ふりし心しりきや「音つれば木の葉時雨とふりくらしさそひかほなる木枯吹あはすぬるふゐたけのうれしよしも數そへばまつうらみさへしられてねにかよひてやねにしらすらむ。

延年の舞

夫如意寶珠と申は所願圓滿の名珠ありされはとよ磨き上たる初日かけ霞むみどりの山まゆもひらけそめたる時なれや「咲しより盛り日をへて春風に吹きてちる花の色は白妙の衣手に雪と見へて「きさらぎの夕暮朧月夜にしくものも名残かるちきりにてとゝむる袖のうつり香にすも深くやなりぬらん。

内裡よて女房達あなとりて是をひきたまへとて和琴を出しけれは　中納言匡房

相坂の關のあなたもまだ見ねはあつまのとも知られさりけり

女學雜誌　第百三十六號　明治二十一年十一月十七日發兌

社説

○將來の和歌（二）

チエムバーレン氏が和歌を評して申されたるに、和歌は單純なるものなり、古へを偲ぶものなり、宮殿の華美を凝めたるものなり、とあるが極めて能く穿ちたる適評と思はるゝ。和歌は何代より起りたるものか、茫として判然いたさぬ、或はイザナギ、イザナミの兩神も既に和歌を詠まれたと云ふが尙更らに相分らぬ、先づ素盞嗚の尊の八雲立の神詠、又は神武皇帝の眉並ての御製なんどを最初として、之より代々に長歌短歌の詠まれたる者少なからず、奈良の朝に至つて人丸赤人家持の如き歌仙出でたり、降つて宇多醍醐の朝には貫之躬恒の輩ら出でゝ歌道大ひに興り、之よりして、基俊俊成、又は俊惠長明などを經て、終に定家家隆に至りたり、此間だに歌風もいろ／＼に變遷し、歌の躰も大ひに相違したるが、然し要するに、和歌の生長したるは大宮の庭である、之を培養したるものは雲卿月客である。而して此の雲卿月客は、平生雲の上、月の影に宿らせられたる、最と優なる御方ざまにてありければ、其がナーセリー（苗床）にて養はれ、其がクレードル（搖藍）にて育くまれたる此の和歌と申す若君こそ、柳質蒲躰、極めて御やさしくお在ますこそ當然なれ」。そも／＼彼の雲卿月客とか申す方々には、通常如何なることを勤めとして、御暮らし遊ばされたるかと云へば、春の朝たには散る花を怨み、秋の夕ぐれには落る木の葉を歎ち、夜又晝、たゞ歌の稽古を御勉強なされたるとである。左れば、其お耳に聞ゆるものは、花になく鶯、水に栖む蛙、たかゞ聞えて、奥山に紅葉ふみ分て鳴く鹿の聲位ひである。其の御目に觸るものは、御殿の階、お庭の草木、泉水の流れ位ひ、たかゞ、大ひなるものとあれば、先づ白妙の富士のけむり、小波たつ志賀の水海である。故に、なか／＼遠方へお出でになるとなどは無い、偶逆に非常の御出遊とあれば、先づ男山の八幡宮、住吉の大明神位である。悲しくて／＼てならんと慷慨さるゝは、抑も何如なる事の之れありてかと伺へば、人こそ知らね乾く間なし、物や思ふと人の問ふ迄で、只だ、極めてメゝしき所の戀情の行違ひである。戰争があらうが無らうが、百姓が困苦しようが引くり反らうが、其邊には頓とお搆ひなく、粗の夷、田作の荒男等は、その御目に止まるの果報を得ざるものであつた」。扨て、如此き

意氣地なきヘロ〳〵公卿が、マメ男、シャレ男、色好み男を氣取つて作り爲したるの和歌に、何如んぞ豪壯絶大なる、高尙、凜潔、至純、至正なる所ろのポーエマあるを望むべけん、只だ單純なる、昔し風なる、御殿めきたる所ろの吟詠として成立つたるは、さて〳〵、切ても大いなる僥倖であつた。

然るに、和歌の養われたる塲所が如此くなりしのみならず、之を弄びたる人々が如此くなりしのみならず、又た後世に至つて之を學ぶ所ろの人々の上に大ひなる間違ひが生じたり。即はち彼等はいよ〳〵古人の愚を學び、いよ〳〵古人の短所を大きくしたるのみか、或は制詞、禁句など云ふ制限を立て、又は雅語俗語の區別を嚴密にし、或は折句、沓冠、廻文歌など云ふ詰らぬ趣向に眩らめき、又は三十一文字の長歌を最上として、連綿たる志想を長く詠出すの短歌を退け、其趣向はいよ〳〵淺く、制限はいよ〳〵嚴しく、卑屈摸倣はいよ〳〵盛にして、活潑爽快なる自立の進歩はいよ〳〵衰ろへたり。而して現今の開明なる文學世界に於ても、所云る本職の歌人なるものは少しも奮發興起するの精神なく、矢張り世は泰平と安座して、從前傳來の小刀細工を爲しつゝある、彼等は他の作歌を見て、僅かに假名ちがひ、テニハの相違位ひを八釜しく言ふが能である、而して其の夫子先生が作られたる名吟を拜聽すれば、神主の宣詞の如く、市兒の夢物語の如く、たゞ並びに列んだる假名が慢偏なく唱へらるゝまでゝある、其の味ひと云へば、實に糟を嚙よりも、灰を嘗るよりも更に味なし、然るに其の夫子は何々大人と尊稱あつて、驕然西洋の新思想を冷笑遊ばさるる計り、其外に何んたるお覺悟もないように見ゆる、吾人の如く、餓るほどに御名吟が承わりたいと望める年少の書生に取つては、實以て遺憾千萬の世の中ではある。

然らば、今の和歌には、必らず何處にか弊害の存し居るゝ相違ない、之を改むるは尤も進歩したる歌人の義務であらうと信じて、吾人はたゞ斯る歌人の一日も早く出んことを切望する所ろのものであるが、茲に卑見を以て今の詠歌論を一評し、極めて無頓着に其の病元の尤も大ひなるものを指摘すれば、彼の「歌はスラ〳〵と詠め」「歌を詠むに理屈を言ふな」と云へる普通一般の敎へが、是れぞ即はち大ひに名吟の生長を妨ぐる基ひと思はるゝです」。成程、歌は謠ひ物なれば音調が滑らかでなくては成らぬ、勿論成べくスラ〳〵と詠みたるが宜しかるべし、下手な飜譯文を讀むようなるは尤も惡るきものに

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

てはあらうが、然し此のスラ／＼と云ふは、たゞ之を流暢眞摯に詠よとの意義にて、凡そ高壯なる非凡なる大哲見を詠みてはならぬとの譯にてはあるまじ、然るに多くの歌人は此處の極意を誤まり、歌はたゞ成べく淡薄なる思を、成るべく淡薄に言ひあらわし、身は何如に文明繁劇の時代にあるとも、心は太古蒙昧の時世に反つて、子供の如く愚人の如くに成りはて、扨てスラ／＼と寢言を朗詠することと考へたり、之れ即はち和歌に大ひなる深き高き考への詠れざりし元因であらう。特に亦た、和歌には理屈を言ふなとの敎しへ、之も亦た一應は尤もの說で、彼のマコウレーがミルトンを評したる如く、深く研究する所ろの心には、切に感ずる所ろの歌心の温かには起りがたきものなれば、凡そ詩歌を作るの情と、理屈を樂しむの腦力とは、往々反對するに相違ないです、然し此處に精密に考へねば成らぬ一點と申すは、理屈を研究すると云ふことと、理屈を直覺すると云ふとの相違せる次第である、之を研究するとは即はち顯微鏡を以て望遠鏡を以て解剖論を以て論究することであるが、之を直覺すると云ふは研究することとは大ひに違つて居る、即はち其の大哲理大學理を覺つて、心に深く之を感銘するものであれば、解剖的よりも寧ろ惣合的にして、科學よりも寧ろ美術の神髓を得たるものである、故に歌人が因明ロジックの論法によりて、何は何である、何は之である、夫故に之は何であるなど、論究せられては實に困るが、然し其の論究し了したるものを感銘するか、若しくは初めより此の論究し了したるもの丶類を直覺するは、即はち之れ歌人詩人に尤も尊とむべき性質であらう、然るに歌論に云ふ所ろの理屈を申すなとの意義は、通常大層に誤解せられて在る、凡そ六かし氣なる事、高尙豪大のやうなる事は一切詠まぬようにと敎へらる丶、之れぞ即はち和歌に大ひなる深き高き考への詠まれざりし元因であらう。

故に吾人の卑見を以て將來の和歌に尤も多く望むところの者は、願くは高尙なる哲見を有するものが歌を詠むように成り、又歌を詠む所ろのものが高尙なる哲見を有するように成り、即はち更らに高尙なる理屈の觀念が歌と調和するように致したいと思ふとである。實に詩人歌人は人間の聖なるものにして、彼の自然、人情、大能力、と云へる三つの者の爲に代言する極めて高尙純潔の天使である、罪なき幼な子の性質も玆に凝つて居る、非凡絕倫なる大豪傑の性質も玆に凝て居る、彼の思考力の天に達し地に沒する大哲學者の性質も玆に凝つ

て居る、奈良平安の意氣地なし男等は、蓋し眞正ある意味に於ての詩人歌人のお庭掃にもなれぬ者であらうと思ふ。」故に吾人は或論者の言へりし如く、同く亦た大和詞の甚だ優長緩漫なることに歎き、又た多くの歌の甚だ短かきことに恨むものにてはあれども、然し此等よりも更らに尤も深く殘念に存ずるは、彼のスラ〱と讀め、理屈を言ふなどの元則の誤解せられて居ることにあるです。ミルトン、ドライデンなどに用ひられば、彼の剛情なりし英國語も極めて柔らかに成つた、若し茲に大ひなる歌人が出でて、大和詞を自由に用ひたらんときには、此の優長緩漫なる國語も決して活潑爽利になれぬと云ふことは無らう、況んや四音信に足らぬ三十一文字の制限は、何も必らずしもと云へる譯あるにあらねば、改るに六かしくは無らう、雅語俗語を混用するとも、漢語洋語を挾れさむとも、之を試るものあらば、即ち其日より出來ることであるが、たゞ所云る錦腸を養つて、高大深長の詩の情を造り出し、多年スラ〱としナヨ〱としたる歌人の腸を改造するは、是れ當今に於て尤も六かしき所の大事業であらうと思はれる。」然し歌人諸君すでに專門を以て任じ、此の大和の國の世襲財産を、御世とこしへに彌や盛んならしめんとせらるゝに於ては、願はくは此に心を留めさせられて、切に奮發興起あらんことを熱望するです。

ドライデンがミルトンを評したる言葉の中に、

世を隔てたる三代に、希臘 伊太利 英國に於て三の詩人現はれたり、第一は其の高大なることに於て、第二は其の威大なることに於て、第三は其の高大威大なることに於て優りたり、自然の天力は此よりも外には行かざりしと見へて、第三を造るには第一第二をば結合したり。

と申しました、蓋し古今万國幾千の詩人の中に於て、其の尤も優絶したるものを何人ぞと云へば、即ち希臘のホーマー、伊太利のダンテー、英吉利のミルトンである、而うして此の三大詩人は何に於て斯く優絶したりやと云へば、即ち其の高大なること、其の威大なることに於てであると申す、實に之れ適評であつて、后世チイツチルス、ゲーテ、エメルソンなどの衆詩人に優れるところも、即ち亦た此類の長所ありしに由る、言を換へて之を言へば、即ち是れ必らずしもスラ〱とせず、必らずしも小供の如くならず、能く大理屈を大觀したる、スペンサーが所云る詩才に學術の婚嫁したる結果であらうと思はれる。故に吾人が將來の和歌に於て同じく、亦た將來の歌人に於て熱望するところのものは、即ち是れ也、

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

先づ第一に彼の二條の誤解を改むるとであると信ずる。

終に臨んで女生諸君に告ぐるハ、何卒將來の女學生の間だに、高尚潔白なる女歌仙の多く出でんとである、吾人は平素女性を以て美術のエンジェルなりと思へり、汚濁の間に沈んだる萬民を慰さめつゝ、其の碎けたる心を導ひて天に伴なひ行くは、實に女性ことに眞正の女性たる彼の女歌仙にありと思へるゝです、固より男性の詩人も多く出でゝ欲しひ、然し温たむるもの、慈けあるもの、尤も鋭どく直覺するもの、鳩の羽に載せて瓢然天に上らしむるものハ、寧ろ女性の歌人にこそ望まるべきものである。ミッセス、マックリアン、ミッセス、ヘマンス、ミッセス、ブローニンの如きは、必ずしも外國にのみ現出すべきものにあらず、むかし六歌仙の中には一人の女ありしなり、宮中の歌合せには毎度女が勝ちたりし也、願いくは將來新日本の詩歌社會に於ても、同じく女性の歌仙の多く存せんとを、切に祈り切に願ふ所ろのもの也。

ロッキー山上に二小泉あり距離遠からず高低亦畧ぼ同じ一を棒じて他に入らしむ易々なるのみ然れども一ハ東に流れてミシ、ッピー河となり一は西に流れてコロムビヤ河口を過ぎ太平洋に入る此に至れば一萬余尺の山を隔て五千余里の道を離る

論説

左は過日明治女學校毎金曜日の例會に於て演述せられたるものゝ筆記なり。

○米國の女子

哲學博士　元良勇次郎演
仙與次郎筆記

今日は、私に米國で實地見聞したるもの、格段に婦人の事に就て、御話しする樣との事であります、併しながら、彼地に往て見れば色々に珍らしき事もあるが、扨て、御話仕やうと思ふと、何れから話したら宜しいか、殆んど、分らぬ樣な次第です。

初め亞米利加に參ッた時は、何事も眼に新らしく、町の立派なる事、家の宏なる事、或ハ器械の整頓して居る事、總て工業の盛なる事、殘らず眼新らしい其中でも、格段に西洋に參れば婦人教育の盛なるは孰でも驚かぬ者は無い位で御坐います併し固より亞米利加でも同じ國で、決して天國でもなくパラダイスでも有りませんから、亞米利加に往けば天人の樣な者ばかり居るだらうと思ふて往く人ハ度々失望する事が有ります、併し私ハ幸ひ斯かる考を持て居ませんでしたから完全したりと感ずる所も缺典なりと嘆ずる所もありましたが、餘りに失望はしませんでした。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

御存じの通り、亞米利加ハ婦人の教育の盛なる所、又婦人の獨立心の盛んなる所で、此の二ツに於ては世界中他に比較すべき者無き程で御座います、亞米利加人の申しまするには、亞米利加は世界第一で端から端まで米國に超へた所は無き樣に申す人も隨分有りますが、ソレハ全く亞米利加人の誇り過ぎた所で御座います、併しながら婦人の教育と婦人の權利の盛なる事は實に世界第一と云ふても間違はあるまいと思ひます。固より社會に於て教育とか、權利とか云ふとは分解り易き樣な事であるが、ソンなら、權利とは如何なるものか、教育とは如何なるものかと云ふに、之に答へるには最も六ケ敷いです、金錢を澤山に持て居るが權利である歟、智恵が澤山有れば權利歟、品行を正しく守て居れば權利である乎と、一々問訂した時は、權利の解釋には實に苦しむ事も無々あります。固より亞米利加とても廣き國であるから、桑港は桑港の風があり、母斯頓には母斯頓の風が有る、又華盛頓には華盛頓の風があり、モット南に往けば南の國と云ふて北の國とは餘程に隔ッて居て、風俗より人情に至るまで、ソレ〳〵に違ひがありますから、之を一括して御話しするもナカ〳〵六ケ敷事で御座います。併しながら先づ亞米利加の人が、自分の國の事を評するに、母斯頓は先づ教育其他の開化の中心としてある、紐育は商業開進の中心の地としてあり、ボルチモールは合衆國南國にての開化の中心文明の集りたる所としてあるから、斯く分けて考て見れば、幾分か內實の樣子がわかる。母斯頓に往きて、先づ初對面の人ヨ紹介すれば其人は後で何を標準に取るかと云ふに、アノ人は何れだけの學問が有るかと、學問を以て位置を定める、學問が有れば尊敬し無ければ無いだけの取扱をする、總て學問次第で、其人の位置を定める、併し紐育に來れば、マルデ容子が違ッて、アノ人は何れ丈けの身代であると尋ねる、勿論紐育は商業の盛なる地であるから教育も進んでは居るが、先づ身代の大小多寡を以て其人の位置を定めます、又ボルチモールに往けばアノ人の先祖は孰かと尋ねる、ボルチモールと云ふ所は餘程日本と似て居て、智恵でなく、富でなく、輙ち門閥を以て位置を定むる所だから、直に先祖を問ひます、是れは私の一家言ではなく既に國人が國人を評して申す言葉ですが、今是れに據て深く考れば、何しても婦人の風俗でも、其他のとでも、大抵の容子の違う事も知るとが出き、又以上の三箇國の比較をする事が出きます。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

米國に於きましては、婦人の權利と云ふ事は追々盛にあつて來て、只今のところでは、男女同權とか申すことが、(古いとでもないが)、日本などでも、理論上から耳の痛くなる程聞て居りましたが、亞米利加では實際に遣て居る。亞米利加婦人が通例權利とか主權とか八釜しく論じて居るのハ、通例の社會上の關係でない、或は家の中に於ての家族の關係とか、或は又外の友達に招かれた時に席を讓り合うとか、此等の權利は、總て女權が伸び過ぎて居る樣に見ゆる所がある、併し只今八釜しく言ふて居るのは、政治上の權利です、則ち投票權を女子に許すか、否と云ふとて、既に只今の所ではソレに反對する人も多くして、未だ投票權を有すると云ふ所には往きませんが、併しながら宗教家のうちでは、最も男女同權を主張して居る、其の一二の例を擧れば、母斯頓の近在に於て私は、婦人にして教會の牧師となり頻りに說教して居るのを見ました、此等が宗教社會に於て、女權の最も發達したる點と云ふて宜しいで御座いませう。(未完)

○女學雜誌記者に質問(其二)　在獨逸　朝陽外史

先頃、或東京の有名なる論者が、社交上に於ける婦人の勢力とか申す、演說中に、西洋の御婦人は、世の中に於て、勢力がある、縱令ば、演說をするもレデース、ゼントルメン(貴女紳士)と云ひます、紳士が、第二でありますと御座りましたが、コハ、甚はだ解せぬ事で御座ります、斯る、有名の論者にも、似合はず、西洋と申さば、只英語を用ゆる國のみの事と、御心得のものと見へて、西洋にては、貴女紳士と申して、紳士は、第二に置く故之を以ても、西洋婦人の勢力のあるを證す可しと、得意然たる、御議論では御座りますが、シテ見ますと若しも、西洋にて、紳士貴女と申して貴女を第二に致しましたならば、右の論者は、又言を變へて、西洋にては、貴女が第二に置かるゝを以て、西洋に婦人の勢力がないの證ジヤと、云はれねばならぬ論理で御座りますまいか。スルと、妙で御座ります、現に佛國に於ても、演說を致す時抔又万事に付けて、紳士貴女(Messieurs et Dames ! En voitur-r-re !")と申し、獨逸に於ても、紳士貴女と申します、(Meine Herren und Damen, das Essen ist aufgetragen,)(Ladies and gentlemen, dinner is on the table.)乃ち、貴女を第二に置きますが、如何なるもので御座りましよう、私の如き、イヤハヤ淺學のものには、果して、其論者の西洋と申さるゝは、何處の事を申さるゝや、更に合點がまいりませぬ儀で御座ります。閑話且休、實は私も後來日本の婦人が、歐米婦人の如く、學問も出來、世

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

才もありて、能く男子と共に、國家の幸福を、增してまいらる丶樣、あらま欲しくは存じますれども、何分今日の有樣は御承知の通りタクワンと米を以て生活致し居まする故、富の度の低き、國柄にては、マダ〳〵急には、當時世間の多くの論者の申さる丶樣な、理想的な事は、出來ますまいかと存じます。其故に、現在に須要な、婦人に付ての事は、學問を勸むるよりも、交際を奬勵するよりも、寧ろ第一に家事經濟に長ずる樣、縫針の業に巧なる樣、子を育ひ、人の母たるの德を得らる丶樣、或は又職業を習ふとか、進んでは音樂美術の事にても、心懸けらる丶方、遙かに、今日の日本國に取ては、眞正の貴婦人かと存じます、今假令、急に歐米の婦人の樣になられたとても、決して、夫が我國の幸福を增すと申す事は御座りますまい。日本と申す國はイツモ日本で御座りますれば、其國相應なる又我々の分限に應じたる、御婦人の權利、又義務を實行さる丶こそ望ましく存じまする、然し私は何も何時迄も我日本は本の日本にて、居れと申すには、毛頭御座りませぬが、凡そ事物には順序と申すものが御座りまして、順を追ひて、進まなくては、なりませぬと存じます、マダ、シカモ東京の首府すらに牛馬に代はり人間が引く人力車が、存在致し居りますの今日なれば、マダ仲々、歐米通りには萬事まいりませぬも尤も至極の事で、何も婦人御獨が、別段退步致して居とは申されますまいかと存じます。然し此邊の事は、記者の方が能御案内なれば、別段申上ませぬが、實は近頃、面白き譬話を、或獨逸の新聞にて見ました故に、左に申上げましよう、或米國の宣敎師が、亞非利加に渡りまして、或地方の土人に、眞敎の傳道に、從事致し居りましたが、或日、一人の土人が數人の婦女を連れて、說敎を聞きに來ました時、右の宣敎師は、土人に向ひ、彼の數人の婦女は、何者なりやと問ましたれば、土人は彼等共は、拙者の妻で御座りますと、答へました故、彼の宣敎師は、篤と、一夫多妻は、眞の敎に反く事にて我々は一夫一婦であらねばならぬと、骨を折りて、說敎致しましたれば、其日其土人は歸へりまして、後數日立つて、此度は只一人の、女子を連れて來ました故、宣敎師は先日汝の連來し後の妻君共は如何致したるやと、問ひましたれば、土人は、イト得意然と、サレバ御座ります、先日の御說敎にて、能く一夫多妻の惡るひと申す事が合點往きました故、實は、後の數人のもの共は、皆拙者が打殺しまして、其肉を食ひ盡し、只御仰せの通りに、一人のみ殘しまして、只

今連て參上致しましたが、定めて之では異教に適ひまする事て御座りましよう。と申したその話が御座りますが、其は假令異教と申しても、カラの野蠻人には、直に分りませねば、又行はれもせぬものである、成程、一夫一婦の道は、善き教には相違なけれども、未だ人を殺すをさい無道と心得ぬ野蠻人には、猫に小判同樣で、其教の主意が今より分る可きや、故に我々は、順序に由つて、萬事を行はなくてはならぬと、申す意味を寓したるものと存じますが、今之を日本の事の例に取りますは、チト、ヒドイかと存しますれども、私は善き譬ではあいかと考へます、成程、日本に行はるゝ婦人論中、御議論こそ、御尤千萬ながら、何を申すにも、其御說の直に行はれて、果して美果のあるものなるや、或は、又毛を吹て瘡を求むるの類ではなからうか其邊能々前の譬へに照らして、考へられました日には、少しく又悟らるゝ事もあらうかと存じます。然し之は記者の責任と致さるゝ所なれば、明判は記者に依賴申しまして、只私が前に申した、不審の義を申述べて記者に質問致す迄で、御座ります、草々不一。

九月十三日　萊因河傍にて

主筆　巖本善治君几下

批評

○粹　一冊中本九十四頁定價二十錢　發行所愛知縣名古屋三浦祭助

此書は東京の人夕霧丹治と云へる粹人の戯著なるよし、巻末の署名によりて此の丹治と云へる人を考ふるに、愛知縣名古屋の寄留人伊東洋二郎と云へる確か佛教演說にて毎度お名前を聞たる學者なるが如し、巻端には故人アリストーテル序文を記るし、巻后には權八浦里伊右衛門の面々連署して跋を作る。其總論第一章、粹の字義の解釋に云く、

粹とは「クハシ」又ハ「タヽシ」又ハ「クタク」の誼にして字典には先純切精也、又粹然正也、又研米也とありて、凡そ吾人が寒暄相訪ひ、吉凶相弔し、苦樂相談じ、情緒相話すも、みな此粹を以てせざるはなし、其然る所以のものを考ふるに、粹とは、縱へば、親が其子を叱るに馬鹿叱りをせずに、威光と恩愛とを、筋道の上より、說き諭すが如き、又は政談演說家が、政府を攻擊するに、硬直の論を以てせずに、婉曲の言を以てするが如き、總じて……思ふ事、又は言へんと欲する事を口にていふも、十分にいはず、十分に、いはずして、却て十分いふたに釣合ふに、あたるか、又ハ演劇にて、之をいへと思ひ入れの、形容を以て、自分の思想、情欲を寫出して、以て他人に知らしむるか如きをいふ者なれば、吾人彼我交際するも、此粹なる者の、作用及制裁に據て、權利を枉屈し、又ハ義務を缺失するが如き事なく、社會諸般の事物、みな圓滑に調理するを得るなり。

文章流暢と云へども極めて輕薄なり、連りに哲學の論を眞似れども極めて淺薄なり、一讀して了して吾人の腦は恰かも汚がされたる如くに感じぬ、蓋し正歩盛服するの讀者は、醉人と語る可らざる也、吾人は但だ嘗て色情哲學の著を評したる一節を擧て再び此書を評すべし。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

凡そ此類の書を記す者は先づ文章を嚴格にし假にも讀者に浮きたる志念を起さすべからず次に引例する人物を撰みて決して下等なる社會の人々を用ゆべからず記者若此二事に注意せずんば其の志や甚だ好く趣向も亦面白からんとも不幸にして其望む所の成果を得ざるべし況んや志す所も亦た全く純粹ならず趣向も往々賤服すべからざるものあるに於てをや。

〇淺瀨の波　上下二册中本和綴合五十七葉定價三十錢　發兌所京都妙滿寺前町　河合卯之助

此書は池袋淸風大人が案山子の舍社中の詠歌を編輯せられたるものあり、大人が和歌論は嘗て本誌上にも一評したるとあるが、兎に角、正實なる而も斬新ある新躰の和歌は、必らず多く大人が一流より出づるならんと望みたりしに、此書を見て其の望の徒らならざりしとを知れり。例せば、

浦島子　池袋淸風
千代經べき龍の都にありてだになほふる鄕は戀しかりけむ。

市　湯淺吉郞
朝市にめせとすゝむるかつら鮎夜ふかき月にとりて來つらん。

寄道述懷　淸風
なにとなくうれしくなりぬ世の中の千々のおもひも神にまかせて。

述懷　よみ人知らず
とにかくに老たる母のなくさまは身は死ぬるとも何かうらみむ。

月　淸風
さまぐの雲のすがたをまづ見せて出くる月のおもしろき哉。

馬上落花　吉郞
山川に水かひをれば乘駒の黑髮の上に花ちりかゝる。

如此き、何如に新日本の平民を喜ばするの玉音ぞや、吾人は此舍の新躰歌のいよく長くなり高かくなり強くならんとを切望す。

(82)。婦女實業案內　中本一册百四十八頁定價五十錢　發兌所東京通一丁目大倉孫兵衛

此書は佐久間孝氏が編著せられたるものにして、上下二卷を合す、上卷には文學實業に係はる事件即はち脩身讀書より政治一斑に至る迄て凡そ十六章あり、下卷には婦女龜鑑として合計一百十五人の略傳あり、集め方に少々申分はあれども、先づく斯の如く一書に之れ丈けの事柄を編まれたるは、讀者の便利少なからず、全卷の趣向は專ばら昔し風の女を敎ゆるにありて、其の脩身の條に、

身を脩むるの道を窮め女子の守るべき分を辨へるを以て目的とす其方法は和漢聖賢の書に就き其趣旨のあるところを知悉し……

而して下卷に龜鑑として擧げられたる一百五十の名婦人は悉く和漢の婦人にして一人も西洋の女性なし、彼娼妓藝妓等まで龜鑑とせらるゝ程ならば何如に西洋なりとて更らに立派の鑑みとすべき貞婦淑女なからんや。

(83)。女用消息文　上下二册大本和綴合百廿二葉定價　發兌所東京通二丁目小林新兵衛

此書は大野定子が著佐々木弘綱氏の校閲にて、素と雅俗の女文を混じて一種の新躰を造らんとの心掛にて、將來の女用文章の例を示されたるよし也、菊を贈る文に、

雨の後は一層肌寒く候𛀁は花園の黃菊よき程に咲初め候まゝ御笑草に御覽に入れ候手入の程も屆き兼候へば花は小く候へども御さし入の料にも成下され候はゞあり難く存候尙またよき花も咲出で候はゞ又々御覽に入申べく候かしく

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

扨こそ少と固たくなりたるように思わる、今後の女用文は大抵之ほどにて宜しかるべし、彼の
一筆しめし上まゐらせ候此候はまことの候に御座なく候次に認ため候が眞との候に御座候、さてとや自分がらかへす〲もまゐらせ候、御前さまにも御氣げんよく居らせられ御目でたく存じ上まゐらせ候、手前も又存上まゐらせ候〳〵
此の躰は最早相應すまじ、然し手紙には用事の文と親愛の文との二種あり、用事文は可成短かく可成く明白に認ためたるが宜しければ、此書の如き文躰こそ尤も適するあれ。親愛の文に至ては可成丈け言文一致に近づきたるがよし、
忘れねばこそ思ひ出さず候かしく
などと利口風たる書方よりも寧ろ飾らざる有の儘の言風なるが宜ろし。

因みに申度は各女學校の文章科には、是非女用文の稽古ありたし、彼の英學佛學獨逸學などに達し、洋文は立派に書け乍ら、倘又「余輩女性豈ニ切齒扼腕慷慨悲憤ノ情ヲ禁ゼザラント欲セザルヲ得ベケンヤ」などの文章は書け乍ら、極まり切つたる時候見舞の文すら、當り前に出來ぬとは實に歎くべきことなり。

○不知庵大人の御批評を拜見して
御返答までに作った

俄俳文（其二）

美妙齋主人

次に言文一致についての御說、こゝは容易ならぬ箇條ゆゑ小生も包み隱さず、ありの儘、思ふまゝを述べて御教示を願ひませう。仰のおもふき、言文一致の眞正なのは靈活な文字を作ることが出來ぬとの御說、なるほどご左樣です。日常の會話をそのまゝに出したからとて或る一種の哲學者を除くの外決してそれが「美」を爲して居るとは誰が言ひましやう。寫眞派に傾いて仕舞つた「美」、極實りのまゝの「妙」、とても眞正の「美妙」とは言へません。が、しかし其處です、その所謂日常の會話といふものは所謂完全な形を取ッて行へれて居るものですか。決して左樣では有りますまい。文となるのと語となるのと時間の遲速が有るのが第一の原因、そして會話する者かならずしも文學家でなく、文學家決して會話せぬもので無いといふ相違が第二の原因、これでいへゆる眞正の會話、即ち極普通の俗人の會話とその會話を用ゐて字にあらはすその技倆が出て來ます。凡俗の言語と辯士の言語と相違の有るのも同理でしやう。その極實に傾いてまだ美といふ處まで發達せぬものを取上げるのが得策ですか、たゞ言文一致といふ字義に泥んで。是も左樣では有りますまいつまり眞正の言文一致といふ、その「眞正」といふ言葉が「まだ美に至らぬ」といふ意味なら實に仰のとほりです。言文一致と名には言へ、寫眞を主とするだけの言文一致なら何の甲斐もありますまい。是は大人の御說を反駁したのでも有りません。たゞ小生の意見を述べただけです。更に移ッてこれから下へ行けば、大人は小生の從來の文を田舎人の折ッた櫻花と御見立て爲さいました。是は適評です。が、その田舎人の折ッた櫻花に仕立てたのも一時一寸意見が有ッたのです。はじめ言文一致の基礎にするのは何が宜いかと考へて、まづ第一、「簡畧」の點のある物を採ばうと掛りました。これは從來の和文が冗長に過ぎた點、それを避けやうと第一思ッた結果です。それで「簡畧」の點で上中下三流の語法をしらべると、今思へば間違ッて居ましたが、下流の語法が一番その點に於て及第するやうでした。それからその語法を用ゐて來る、さう爲ると第一に當惑したのは「何々ダ」といふ語法が出て來たことです。「ダ」は音調さへ甚だ耳に立つものを更に下流であら〱用ゐればいよ〱怪しく見ゐて來ました。が、しかしながら今日までの語法に人造の強い變化を與へるのは全躰小生は好みません。「ダ」といふ助動詞を去ッて名詞で結ぶのへ如何にも「美」といふ點からは申分ありませんが、それでは完全な文（文法上の）といふものが殆ど出來なくなる程です。出來るだけ文を言に近付けてそれで又文法上から正しても欠目の無いのを求めますから自然「ダ」などは度外に置く譯に行かなく爲ッて、其時は斯う考へました、「言のためには寧ろ些計の美をば犧牲に爲やう」と。併し、これから下流をいろと撰ん

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

たのは其實進ッて居たのです。後にまた深く調べて見ると實に案外、中流と下流との間には大した箇冗の相違が無いのです。其の外に損益の段から言へば中流は空間のいやしくないといふ益を持ち、下流は反對の損を持ッて居ます。元來下流の用ゐられたのは其の箇であるが爲でした。それが左樣でありませんならば下流はどうしても中流に一步をゆづる譯です。

はじめ主として下流を用ゐ、いまは中流を用ゐるのは全くこの故で、下流が「美」の點に於て欠けて居るとは知らなくもありませんでした。たゞし、頓智頓輿を濫用したのは一氣呵成で書く上に更に泰西の語法をも入れやうともめたためです。が、文脉の方の仔細はすなはち前のとほりです。思ふに前の人が言文一致をいやしいと擯斥するのは其の實下流の言葉が地を爲したからでしやう。もし其故で無く、更にその嫌ふ原因は全く今日の漢語は上流にしろ、中流にしろ、言語より昇しいといふ點にあるものならば小生の文章も今日には容れられませんのです。しかし、まさか世間讀者の中にその樣な說を持つて居るもの斗が有りはしますまい、いくらか容れてくれる人も有りましやう。今これから小生は既に基礎を中流に置いたからには更に今度はこれを研究練磨して、何か一ッ前に理想を設けて居た望の處へ到着しやうと思ふのです。たとへば是から一ッまとまッた小說を作るにもしろ、其れ故小生は恐くは其れを中流で爲る氣です。如何でしやう、これでも猶いけますまいか知らん。從前下流を用ゐたのは重々わるうムいました。

次に小生の小說に同樣な人物が多いとの御評、これも巧者の鍼、いかにも灸所に中りました。しかし、いくらか是にも原因が有ッて、つまり一言で言へば今まで小生は主に淑女がたに關係のある雜誌へのみ小說を載せて居た故です、が、左樣言ふとは何やら遁辭らしうムいます。兎に角今まで同樣な人物が多かつたのは相違無い事實です。氣をつけるやうに爲ましやう。

以上母親に口返答する兒のやうな申分。けれども其れは懷かしい人の御志にほだされ、また御言葉に甘ねたのです。惡意が有る譯ではありません。恥を舍てゝ內幕をば御打明け申しました。なほこの後とも敢て望む微衷を捨てず御忠告をくだされば何のくらゐ本懷に存じましやう。御評の文面は長く銘して忘れません。帶にも記したいほどです。

雜評

(一)○支那通史　總七卷。一卷既刊。那珂通世氏。中央堂。

十八史略元明史畧などを讀んで、廣漠たる支那の略史をだも味わんとするは、荒比亞の砂漠の砂數粒を頭に詰込んで、世界の通史を知らんとするに似たり、吾人は教育上に於て特に良好の教科書なきに憂ひたる折柄、開化史躰を備へて而も省略簡約二つ乍ら宜きを得たる此書の如きを受け大に安心したり。

(二)○萬國地理　全一卷。前橋孝義氏。富山房。

某に萬國歷史を著したる前橋氏の著にして、彼此双美と云ふべし、此類の書なくして何人も困り居りしに、今斯く續々として氏が手より著はされ來る、吾人其勞を謝せざる可らず。

(三)○萬國通鑑　全二卷。長谷川郁馬氏。有鄰館。

之も亦た前書に同じく、名前は少し變なれども矢張り教科書に適するもの也、原本は獨逸書のよし、何樣一風變はりたる所ろありて、天野氏の萬國歷史とは異觀別美ありと云ふべし。

(四)○視器の保養　全一卷。武藤一明氏。明心堂。

六章四十二節、僅かに九十四頁を以て能くも斯く漏なく養生心得を舉げ盡されしと感佩する事也。凡そ目を大切にするものは必らず一讀すべし、而して何人も必らず目を大切にせざる可らず。

叢話

○善にして且つ利口なれ

惡人の惡るい事をしたるは、之を責れば彼れ或は悟るとあれども、善人の過まちをしたるは中々さとしがたきものなり、即はち最初より宜しからぬ志にて事を爲したるものは自づから省みる所ろあれども、元來善心にて爲したるものは甚はだ強く自から信ずるがゆへあり。故に茲に惡念を以て人を害したるものある時は、之を責伏すると容易あれども、善心を以て善事業なりとして勉強したる人に向つて其行の宜しからぬ事を說伏するは中々にかたし、例ば慈善に熱心の人に對し

て慈善の時として害あるとを言ふても大抵は可かれず、可かれざるのみならず、斯る議論家は不慈善の悪人なりとして乍ちに絶交せらるべし、彼が心は眞とに愛すべくして其の見識の足らざる所ろは實に氣の毒なる事なり。

故に人間が世に立つて事を爲すには、常に左の三つの問題を考へつゝ爲すべき筈なり、

一。尤も善き目的の爲に
二。尤も善き手段を以て　｝働らかん。
三。尤も善き時節に於て

然るに之れはたゞお人が善い斗りでは出來ぬ、尚ほ其上に利口でなくては成らぬ、左れば實際に事を爲さんとするものゝ平生の心中の敎練は、

一。眞心善心道念を引立つる事
二。智慧を多くし大きくして利口になる事

故にたゞ利口にして、善き時節に善き手段を以て事を爲す計りでは勿論イカン、更らに眞心に因て最も善き目的の爲にとして働らかねば成らぬ、然し亦た何如に眞心立派にして、其志は尤も善き目的の爲にするとしても、万一愚にして手段と時機とを考ふるとを得ざれば、其人一身には天にも愧づる所ろなしとも、世の中は之が爲めに多くの害を蒙るとあり。

左れば完全なる人は、眞智を明らかにして、三つの事を考へつゝ、常に正しく且つ賢こく働らくことなり。而して三事の中には、先づ尤も多く尤も先んじて目的の事に注意し、次よ手段何如ん、次に時節何如んと考ふべし、二科の中には、先づ尤も謹んで尤も深く眞心の敎練に工夫すべし、而して后ち其の智慧を研くべき也。

女性は慈善の人なり、道德の使あり、其の志ざし甚はだ潔ぎよく、常に正義道敎の爲めに働らくの念さかむ也、然れども之と共に能く智慧を研きて深く考へねば、百日の辛苦買ひ得たるところは只だ社會の厄介となるが如き大損あらん、慈善に熱心なる女性はことに深く考へ玉はねば成らぬ。

○女子看護法の心得（其二）　華族女學校敎授　津田梅子

善き看護者の事　醫者は日本に於て此の事の必要を感じ看護婦養成の事に着手されましたがドウカ此業の盛に爲り人々の望を滿足する樣に致したいもので御座います善い看護者が御座いますればマサカの時には吾家に賴みて看護を請ふとも出來まするが尚是れに勝りて家内の婦人が看護を心得て居りますれば少しの病氣に氣を付けて大病にならずよすむとも御座

りませう度々少しの病氣が扱ひの悪ひ爲に大病に爲るとが御座います。

女子が看護を怠る事　箇樣に申しましても唯日本の婦人のみが看護法を心得ぬのでは御座いません後に悉しく申しませうが彼の「クライミヤ」戰爭の時手傷を負ひたる兵士や又病氣の者を看護して大なる働をされたるフローレンス、ナイチンゲール孃が英國の婦人中に衛生を心得たる者少なきを歎かれて言れたる言葉に嗚呼此の開けたる國にして平均七人に一人の割合にて一歳未滿の小兒が死し「ロンドン」にては平均五人に二人の割合にて五歳以下の小兒が死ぬることが通例あるが是等の小兒が死することぞや母親が其の早死を見る苦しみは女にとりて免かる可らざることなりや又母たる者には醫者が是非終日附添て居らねばならぬのが自然の道なるか又女たる者は子孫を永續せしむるの方を學ぶよりも「ピヤノ」を稽古する方が勝りてあることとなるか並の學校にて物理天文などの原則を教へられてありながら人の母たる者即小兒の保護者たる人が衛生の道を心得たる者の少ないことは不思議なることではござりませんか神は吾等が身躰と吾等の身邊を圍繞せる萬物との間に關係せる一定の法則を設けられたるに人の母たる者が是等の法則に少しも搆わず都て衛生上の事を皆醫學なり醫者の心得べきとなりと打捨てゝ置は何ぞやと言れました。當今吾々の務むべき事開けたる英國デスラ斯く言れたる位なれば日本なぞにてはマア何と申したれば宜しうございませようか既に過ぎたることは詮方なし唯現在に於て吾等に必要なる智識を得るやうに勉むべきことでございます況して今の女にても昔のような束縛はあなく爲す事考へること共に自由なれば吾等は己れの務を盡て子孫たる者に其責任あることを知らせねばあらぬことでございます私は唯今此事に就て悉しく申しまする積りではございませんが病人の看護に就ては極あらましの事を申上まするがどうか詰らぬことゝ思召さず暫く御聞き下さいまし。(未完)

○伯爵夫人と……藝妓

築地Y.K.生の名を以て、去る十一日に左の如き投書あり、

敬愛する女學記者巖本君足下貴社雜誌百三十五號第十二頁に藝妓より出世して伯爵夫人となりし者に寶冠章を與へると非ならば書生足輕より立身したる者に勲章を與ふるも非なりとの意味の文字を御掲載相成りしは生等の深く疑惑する處に候風教の木鐸と我々の愛敬する貴下此言あるは弘法の筆の誤と存候願くは次號には速に正誤し我々の疑團を散し給へ若し又辨說もあらば承り度次號の御發兌を相待ち居候辨說の如何により我々書生は大に君に向て質す處あるべし併し生は信ず君の過ちを改むるに吝ならざるを拜具。

深く謝す、然れども吾々は藝妓と書生足輕とを同列に比較し

たるにあらず、若し現に伯爵夫人たるも元と其の藝妓たりしが故に勳章を與へがたしと云はゞ、即ち是れ身現に伯爵になるとも元と其の足輕たりしが故に勳章を與へがたしと云ふに同じ、即ち伯爵夫人と藝妓と、足輕と伯爵の高位とを、同時同列に觀念したるの誤を開示したる、極めて隱微なる哲見の心得に候、吾人は依然として年少の書生なり、豈に好んで自から藝妓に比せんや。

○天の雲と大建築　もみぢ

われ早く起て常の如く消遙する時、九段坂の上に來つて端なく前面を望み、朝霧の未だ霽れ遣らぬ彷彿模糊の間に、彼の駿毫なる天主教會堂の大建築を觀たり、結構巍峨、聳然蔚然として天を破れり、傳へ聞く此堂正に成るの日は必らずや是れ宏大壯嚴日本帝國第一の會堂たらんと、着手以來既に三年、黄金を費やすと殆んど十數萬圓、而うして未だ其の半ばをだも成さずと云はゞ、落成の偉觀さこそと思ひ遣らるゝなり。」われ朝霧漠々の間だに既に其の將來の高塔大伽藍を想見し、長歎して且つ其の天の一方を望めば、濃く滯りたる白雲所々に破れて、純碧の青雲遙かに現れたり、壯絕美絕而して何んぞ其高潔なるや、昨宵は定めしかしこに赤雲の緋の如くなりしものありしならん、去夜は定めしかしこに黒幕白銀の星を印したりしものありしならん、然るに朝たより風景一轉化して乍まち如此し、天の大手の工驚ろくべき哉。暫らく此の雲を見て而うして更らに彼の大建築を望めば、霧は早く散じ木骨たゞ累々たり。

○憂苦の初て來りし時　みどり

不意に思ハざる不幸來つて吾が心を取挫ぎたるときは、恰かも是れ太古の初人が初めて夜の來りたるに驚ろきたるが如くならん、蓋し初人ハ未だ嘗て夜なるものを知らず、夜の初めて來りたる夜は、夜は最早去りがたし晝は再たび來るまじとこそ思ひつらん。恰かも然り彼の悲しみの雲吾が上に覆ひ懸かるときは、吾は此の雲を通して何物をも見ず、又此の雲の何如にして散らさるべきやを知らず、たゞ茫然として落膽するのみ、然れども汝ち失望する勿れ、夜は進んで晝すでに近し、悲痛豈に平安の曉なかるべきやハ。然るに一と度び不幸の來りたるとき、乍まち失望落膽して復た自から慰さむるとなき者は、即ハち是れ野蠻なる初人が夜に會して卒然自殺するに似たり。そもそも吾が心は、亦肉躰の如くに斷えず溶解し去つゝあるもの也、肉躰には刻々に失

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

せ行くものあらば即ち亦た日々に之を補ふの食ある如く、心も亦た時々に失はれ時々に修復さるゝものぞよ、今日大ひに悲歎して失ふ所ろの心は明日之を補ふて復たび元の如くすると、豈に彼の大疲勞の肉身一睡して即はち快然たるが如きとなからんや。又た遠近の理は、其の目の上に於ける如く心の上に於ても均しき効能あり、即ち遠きものは小く見え近きものは大きく見ゆるが如く、去るものは日々に疎くして遂に全く忘らるゝに至らん、今日全心を打碎し去るの苦痛も明日には既でに其の大さを減じぬ、明後日には更らに減じぬ、日時と共に遠ざかつて遂に全く影を没することとなしと云はんや。碎く切れ心を、滿天下失望界の佳人、

靜まれよ悲しき心、怨むる切れ悲しき心、黒雲の後ろに大陽あり、汝ちが命運は衆の命運ぞ、人世豈に雨なからんや、豈に暗黒慘憺の日なからんや。

百年同じく謝す西山の日、千秋萬古曉天あり。

○婦人衛生一斑(妊娠養生の事)(其五)

櫻井郁次郎述　佃與次郎筆記

妊娠中の食物飲物の事　次には、食物飲物です。食料飲料と申しても、其種類は甚だ多い故に、何は妊婦に益があつて、如何なる結果があると云ふ樣なとは、記臆して一々茲に述るとハ勿論出きませんが、大畧如何なものであると云ふ位をお話しします。前にも既に申しましたる通り、食物に就て日本の人は、何は何の毒と言ふとを言ひますが、畢竟學理に暗い所から、此の如き事を申したと思ふ、或ハ醫者が、己れの預りたる患者に對して、通辭を作つたとから起つたのでハあるまいか、晩夕豆腐を食ふたから下痢したのだとか、刺身を食ふたから毒になつたのだと云ふ、段々毒の領分が殖へて來てあらゆる食物が毒になつて仕舞つた。詰りは學理に昏いから箇樣な名目を下すに至つたので御坐りましよう。食物は固より決して毒ではない、毒を食ふて一日でも生きて居るとは出きません、併し只消化の宜しきものと、惡しきものとがある、是れは能く區別しあければならぬ。世間でハ、蝦と云ふものは、妊娠の害にある、辛味を食へば何だとか、或は黒鯛ハ血を荒すなどゝ云ふ唱へがあります。成程、辛しの如き極めて辛刺なる衝動性の物は身躰の爲に餘り宜しくはないが、鯛とか蝦とか云ふ樣なものが、世間の人の稱へる樣に有毒なるものでハありません。是れは尋常の食物です、ケレども、蝦などゝ云ふものハ、通常の人ですら中るともあるて、腸加苔兒

胃加答兒杯を起すから、ソレは毒だと世人が言ふならば、之を強て毒でないと云つて食ふにも及びません、又ソンな所に義氣を起すには當りません、併し蝦も黒鯛も、決して毒と云ふ譯ではありません、畢竟食物の中で、衝動性の辛いものとか、全身を痲醉さする物とか、酒の様なものは惡るい。又平日好まないものは、食さぬが宜しい、口に慣れない物を食するも宜しくありません、近來出版の書物（醫者の書物などは勿論）百般の事が渾て歐米のことを飜譯して、彼國を以て基礎として世間に行はれて居ります、ソレ故小供を育てる時の法とか、或は牛乳を是れ〳〵の割合で、此の位飲ますとか、色々なことを申しますが、是れは歐羅巴亞米利加邊の法で、我國に確然と適用し、當て箝めることが出きるかと云ふに、決して然う箝りません。故に、書物通りの事は、未だ容易に行はれません。先づ一寸、我邦の中等以上の社會の、女子社會女子の成長する程合を看れば、男子とは大に違ッて居る。先づ食物なども、平日チヤンと限ッてあります、先づ菓子は胃に惡るい、菓物は食べてはならぬ、水は往かぬと云ふ様なもので非常に食物に制限が有ります。所が、今歐羅巴流亞米利加流の風俗を見倣ッて、サア今日は水瓜を食ふとか、或は氷で何を製して食するとか、水を不斷に飲むと云ふ様なことがあれば必ず其人は腸加答兒を起すとか、胃痛を起して、病人となります。實に風俗と習慣とは、衛生には必要なるもので、一々歐米の風に則ると云ふ譯には往きません。前にも演べたる通り、頓に舊慣を革むるなと申すのであります。且つ水を飲みつけないのに、水を多く飲めば、必ず下痢をします、故に日本の人は、食後茶とか或は湯を飲むのですが、此定りたる小供の中からの習慣を改めて歐羅巴風に則り、卓の上に水がある、其水も純粋のものなら兎に角、東京の如き危き水を以て、歐米の式に則りて飲みましたならば、如何で御座いませう。水と云ふものは、是れまで口に入れたばかり、咽喉に通したことが無いのに、猥りに之を飲みましたならば、必ず病を釀します。西洋に於ては水は二となき飲料であるが、日本では白湯ころ此上なき飲料であると云ふて宜しい。寧ろ水は、麥湯位に換へて置かねばなるまいと存じます（未完）。

西施愛江嫫母棄鏡といへり西施は昔の美人なり江に臨み自の影のうつるを愛す嫫母は悪女なり我が影をにくみて終に鏡をすつ我身と人とを見るにわれより勝れるもの我よりおとれる者あり我より劣れるものは見やすかるべし我よりまされるものは見がたし蟷螂の斧をはりて車に向ふは自らのちからをはからざればなり。

小説

○さすがに双草　第十篇

美妙齋主人

さま〳〵なことを思續けて夜も更に眠られず、身の毒には爲ると知りつゝも終に朝まで起きて仕舞ひました。　朝と爲ればいよ〳〵今日こそは猶豫せず神奈川へ行かうと決心し、父親の目を偸んで窃に支度を調へては居ながら、更にまた一時親をあざむくと思へば流石に心もおちつきません。

「阿父さん、ゐの後どうですか、　妾は兒玉さんのところへ行つて樣子を聞きたうござゐますが」。　心の秘密をばおしかくし、それと無く父親に言掛けました。

「今、行ッてか」。

「はイ」。

「何時ごろ歸る？」

「へエ？」

心に後れがあるだけに、何氣無い父親の言葉も此方には強く感じます。

「そンなに遲くも....たゞ聞いてまゐるだけですから」。

「そンなら宜いが」、　親はどこやら愁はしい躰、「阿時、かう爲ッたからには理を非に枉げても自分の德を計らうと思ふやうな、さもしい心は起すまいね、否さ、起さないねエ」。　しばらく

意味のありさうな言葉、更に返事が出ません。

は出るにも出られず、もじ〳〵して居ましたが、また更に心を定め、「左樣なら」といふ一聲を殘しながらも....苦勞....

「これから一人で滊車に乘るのか。　前には、つひ此間は花房さんとも一途に乘ッたが」、

やゝ門を出やうとした出合がしら、見れば其筋からの人が來ました。　それと見ればまた苦勞、足も外へは進難ねます。更に踵をかへして家に入り、父親とも〳〵召喚狀をよみくだせば、父親に即刻出頭しろと言ふ趣です。　即刻です。至急です。　すぐ支度をとゝのへる父親。　意外に封じこめられて仕舞ッた時子。

「至急とあるからには、もしや花房さんの脚氣でも....それとも何か別のことか知らん。　別の事？　けれど別の事がありさうも無い。　脚氣衝心といふことはよく有るから、もし左樣では無いか知らん」。

うたがへば、人情は無情なものです、ゐの疑惑をたしかめるためにとてか、脚氣衝心で死んだ餘處の人など想起し、その極はまた嘗て讀んだ新聞紙などを繰廣げてわざ〳〵其處にあ

る脚氣衝心の話などおなぐり出し、讀了つては頬杖をついたまゝ無心で挿畫など見て居れば、またその挿畫の人物の顔などが次第に花房のやうに爲ッて來ます。「無殘です、はづれてくれろと望んだ時子の豫察は中りました。　父親が出て行ッてから後ほどなくまた父親から使者が來てこの手紙を持ッて來ました。——

「花房氏病氣危篤……此手紙屆次第至急其方も署まで來らるべし。　留守の事は下女に托して。」

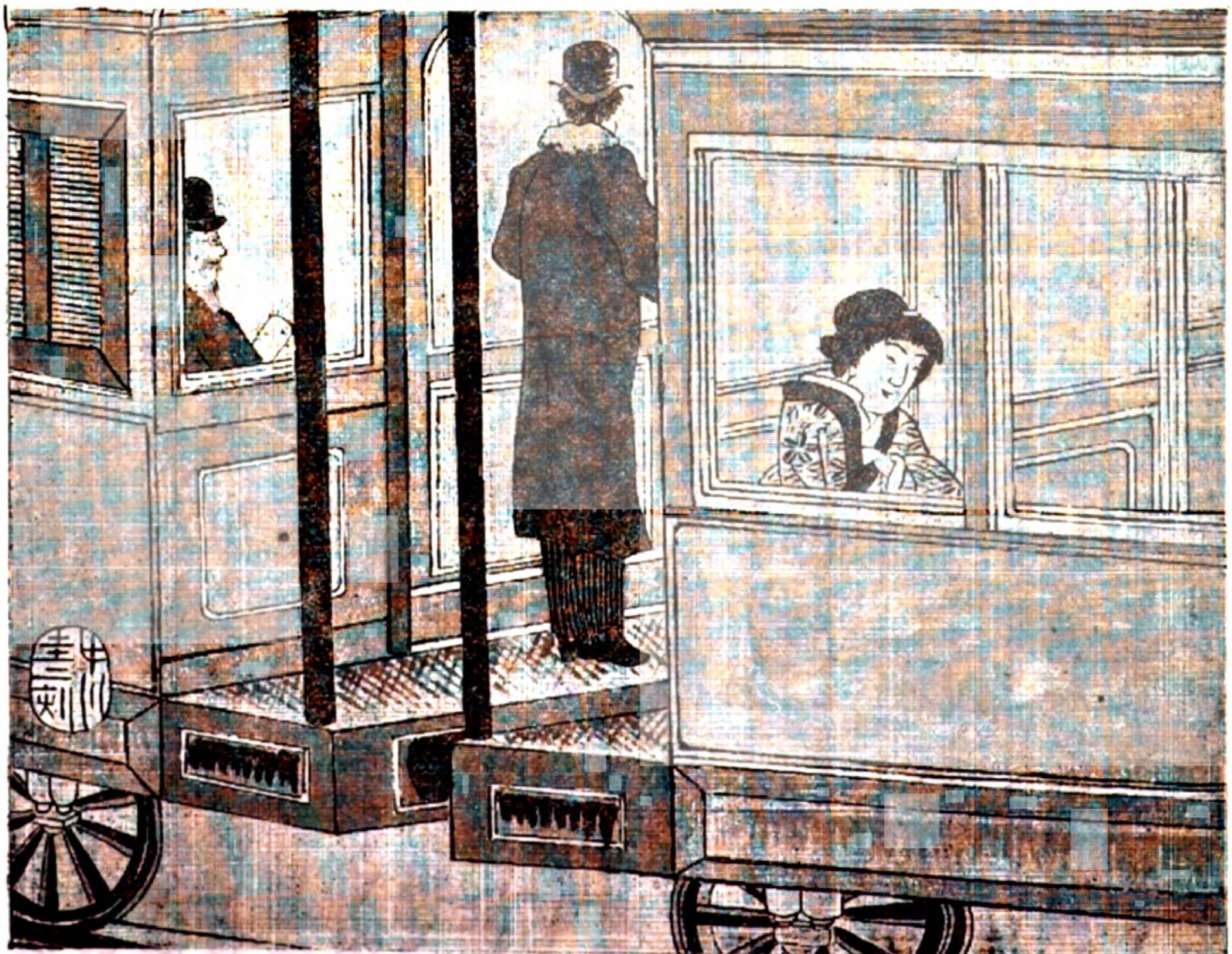
「あゝ數々の辛苦も水の泡ですか。　世の中は兎角このやうなものですか。

✦ ✦ ✦ ✦

○哲女の卷

（第七回）　雲隱（下）　月の舍しのぶ

江天一色纎塵なし……皎々たり空中の孤月輪……江畔何人か初めて月を見る……江月何れの年か初めて人を照らす……人生代々窮まり已む無し……江月年々望み相似たり……知らず江月何人を照らす……但見る長江流水を送る……白雲一片去つて悠々……靑楓浦上愁ひに勝へず……



墨堤に吟じつゝ行くは、春日剛の家に歸るなるべし、月太空に照り樹影地に畵き、水は洋々として前岸の赤火を浮む、堤上他に人なければ、水月の觀は特に此の人の爲めに調和したるが如し、彼れ亦た左樣に感じてや、徐むろに天地を打眺めて嘯ふきつゝ、

嗚呼月よ……月よ、汝ぢは何とて斯く迄でに純潔なるぞ、浮雲も屢ば汝ぢを汚がしたり、狂風も屢ば汝ぢが面を打ちたり、然るに汝ぢは常に損せらるゝともなく、亦た敢て怒りたるの風も見へず、君王の宮裏を照らせば亦た茅屋の破れたる戶の内をも照らし、昔し洛陽に照りたるの面色を以て今夜亦た玆に照るよな、汝ぢに向つて怨みたるものも悲しみたるものも千古幾萬人ぞ、汝ぢに向つて慷慨長歌したるものも千古幾億人ぞ、然るに汝ぢ之を煩はしともせざると見へたり、新月前數日より余は深く汝ぢを待ちたり、然るに新月以后數日常に雨雲滯ほつて汝ぢを見ざりしが、今夜初めて如此くに現はれて余は深く汝ぢの爲に祝するを、汝ぢは嘗て之が爲に不平ならざりしと見へたり、嗚呼之れのみにあらず、汝ぢ滿面を白うして皎々焉天にかゝるの夜、則ち雲故さらに幕を引いて之を覆ふとも、汝ぢは依然として色を變へず、新月には新月の光を發し、弦月には弦月の光を發し、日と共に盛ゆれども左して誇りもせず、又日と共に衰ふれども左して悲しみもせず、晝は太陽に讓り、夜は星に交はり、月々其の軌道を巡つて敢て怠るとなく、千古の明月長しなへに此の如きか。

亦た汝ぢ水も君子なる哉、嘗て山間の谿流より起りて、行く所ろとして友と合し、其の合したるは既に一躰の如く、殆んど彼我を區たずして洋々と流るゝ歟、汝ぢの上に重きを載すれども之を浮め、輕ろきを載すれども亦之を浮め、之を誘へば何の處にも來り、之を放せば何の所よりも歸へり、如何に之を汚がしたるとも乍まちにして澄み、如何に汚がれたるを投ずるも、乍まちに之を洗ふ、何んぞ其の純潔公明なるよ、昔し中將が汝ぢを見たるときも、今余れの之れを見るときも同じく水なり、汝ぢは扨てもよく相繼いで先代の形ちを遺すよな、用ひらるゝときは民の功利と爲り、用ひられざれば民の樂しみとなり、或ひは行て茫々たる太洋に入り、或ひは登つて蒼々たる天上に遊び、消ゆるとも又現はれ、征くとも復た歸り、谿流は河江によりて、河江は海洋によりて、谿流河江海洋は其の登るところの水

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

雲によりて、水雲は其の降る所ろの雨露によりて、天地の汝ち水等はよく斯く迄に連なり合ふよあ、分に安んじて岸より登らず、よく守つて火中に止らず、沛然として雨ふるときは自から惜しまず、漣々として涙だするときは汝ち頗ぶる惜しめり、而うして千古長しなへに洋々たる如此きか。余れ弱はきものなり、然し余れ人間なるぞ月よ水よ、余れ人間にてあるぞよ、天地の諸元行余を打ち建てたり、更らに天地の神粋余れに寄寓したり、此の躰蓋し汝等よりも美なるべし、よし此躰破るゝとも此の心蓋し汝等よりも美なるべし、否な美なるとを得べし、

His life was gentle; and the elements
So mixed in him, that nature might Stand up.
And say to all the Warld, 'This was a Man'!

其聲未だ去らず、轟然として一輛の馬車疾走せり、蓋し是れ藤井伯が夜會に趣むくあり、月は太空に在つて、人は館に遊ぶ、水は墨堤を沿ふて、人は遠く走る、明月江水は舞場に無し、吟調朗々、四面沈々。

至人に巳なく神人に功なく聖人に名なし(莊子)

佳傳

○ウイルラルドゴルドン孃
女史秘書官

ゴルドン孃はウイルラルド女史が半心なり、女史が事業は多く孃の助けによりて成ものと傳ふ、故に女史亦平生深く之を敬愛し、嘗て其ハウツーウイン(女容何如)を著述したるときは、之を同孃に贈るとして題して左の如く言たり、余は此書を、尤も親愛する、米國婦女の軌範たるゴルドン孃に贈呈す。

此頃社友中川君其の畧傳を寄せられたるに付、少か一言を附して之を讀者の覽に供ふ。

Miss Auna A. Gordon. アンナ、エ、ゴルドン孃は米國ボストン府に住し父をゼームス、エム、ゴルドンと云ひて三十年間コロンビヤ國立銀行の會計員にして亦多年アメリカンボードの會計を勤られし人なり女史の姊はアリス、ゴルドンと云ひて傳道の爲めスペインに在住せり而してマサチユセッツ婦人禁酒會の通信書記ベッシイゴルドン孃れ女史が妹にて親族皆慈善家なりき然ればフランシス、イー、ウイラード孃が女史の才能と熱心とを愛して其の婦人禁酒會員たることを喜こんで諾されたるも宜なり女史年廿二能く會頭ウイラード孃の秘書となりて常に事務を管掌し倘ほ他に幼年婦人禁酒會の監督と

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

なりて働らき盡さるゝは世人の賞讚する處あり女史は進軍歌を著述されしが忽ち數万冊を出版し賣盡したりと亦Band of Hope の爲めに禁酒論少女禁説白標紀年と題する書を著して世に公にせり女史は米國婦人禁酒會の役員中猶壯齡に達せざるに係はらず各州を遊説し會員の募集に盡力せらる而して女史は頗ぶる雄辨家となりしと云ふ女史がウイラード孃を佐けて鋭意其職を盡さるゝは會頭の事務局に來集する信書を極めて快活に其處辨せらるゝを見て知るべし回答の文章は一年殆んど二万の多きに達するも一々時期を誤らずして神速に處置するを勉めり女史が婦人禁酒會の主義目的を達せん爲に時に行旅の患難を凌がれたるが如き又能く世人の知る處なり女史容姿温雅にして容貌英邁の風ありと云ふ。

寄書

○大坂一致女學校開校祝文　　内山喜多治

維に明治廿一年十月十三日私立大坂一致女學校新築成り之が開校の盛典を擧げらる此日天氣晴朗天亦祝意を表するものに似たり夫れ白日皓々浮雲の之を遮る無きものは此校前途の祥兆にして暖暄爽快豁風の之を冒す無きものは此校今日の結構なり今や世は女子改良の當初に際し頓に女子教育の隆盛を致すと共に又女子社會の惡弊を誘起するを免れず世人の憂ふる所たり此時に當り此校あり聖教に則り以て德育を布き内外の學に據り以て智育を施し躰育亦其宜しきを度り校舍を城南清淨第一の地に設け敎ふるに三育鼎擧最良無比の則を以てし居るに市城の塵閙を隔絶し別天地を占斷するの地を以てす誠に是れ女子登龍の門を開くと謂ふべし世人豈啻に滿足せざらんや見來れば校舍壯觀を極め高樓大閣巍峨空を摩するの所旭旗影裡にして女徽の紳長發達を標し丹樑碧瓦玲瓏映發するの所緑門色深くして女德の高尙温和を示す嗚呼盛なる哉壯なる哉歡呼盛大を唱して以て之を祝す

○文苑　　鈴木弘恭大人撰

天長節　　三條登美子
千代といふも限りこそあれ大君のよはいへ蘇きじ萬代までに

同　　大谷やす子
けふといへば君がよはいをことほぎて都もひなも賑はひにけり

初冬　　秋元澤子
かりはてし門田のおもの夕あらし冬になるこのおとぞ寒けき

同　　原　安子
そことなく紅葉かつちる山里はしぐれとゝもに冬へ來にけり

同　　池田孝子
落つもる木の葉の上にしもみねて冬いちしろく成にけるかな

同　　新野初子
うちつけに吹風さむく成にけり外山のさともぶゆやきぬらん

同　　矢島幌子
神奈月ふりみふらずみはつしぐれ空さだめなき冬は來にけり

同　　加納美穗子
しぐれゆく雲にあらしの吹そひて昨日の秋にかはるそらかな

同　　植柘　榮子
還近の木すゑまばらに成ゆきてまづあらはなる冬へ來にけり

同　　永井　鎭子
こゝかしこうつろひ殘るしら菊の花の香さむき冬へきにけり

同　　長澤　榮子
見はたせば野べとほしろくおく霜のまだ探からぬ冬の色かな

朝氷　　松野てつ子
いさら川浮ふ木の葉の流れぬは今朝うすらひの結ぶなるらん

同　　跡見せつ子
朝ぼらけ野澤にむすぶうす氷根せり摘む子にくだかれにけり

蟋蟀　　浦早　苗子
秋ふけて人目もかれしわが庭にあるじ顔なるこほろぎのこゑ

同　　關口みつ子
更けゆけば風のみ窓におとづれて淋しき庭にすだくこほろぎ

同　　英國人君子
とふ人もなくてあれたる垣のもとにやすしとこほろぎの鳴

新報

（此欄内自由に轉載を許す）

○日本女醫の姓名

女醫の事に付、近來世上にて多少の注意を寄するようになりたるは喜こぶべきこと也、當今の日本の地位に於て、婦人が諸科の醫博士とならんとするは少しく考ふべき事なれども、其の婦人科の女醫さしては一日も早く一人も多く出んことを切望して止まざるもの也。蓋し婦人の病の多くは、大抵特別なる婦人病元より來ることなるに、大抵の婦人は亦た其の診察を受ることを好まず、寧ろ死すとも醫下の治療を乞はじと決心するものあり、思はざるの至りと云へども實に亦た察すべきの情實あるなり。左れば茲に女醫なるもの起つて、特に此の女醫にして婦人病の治療に能達すと聞かば四方の憫れむべく頑固なりし病婦と云へども、遂に之に就て療やさるゝを乞ふべし、斯して國中多數の病める女を全活するを得ば、何等の喜びなるぞや。

而して吾人は現に既に四人の女醫を得たり、四人の女醫中其の尤も著るく尤も達術の聞ゑあるは即ち荻野吟女史なり、女史が百艱を忍いで日本國最初の女醫として初めて卒業せられたるは實に謝すべきこと也、而して今や女醫たらんとするもの益々多く、亦た女醫の効能益々世に現はれんとするは實に喜こぶべきこと也。因て左に一表を示し、既に開業せられたる女醫と、今其の志を以て現に修業せらるゝ所ろの女醫生とを公けにすべし。

十八年三月開業	東京西黑門町	荻野ぎん
十九年九月開業	埼玉	生澤くの
二十年三月開業	東京日本橋通	高橋みつ
廿一年十月開業		本多せん

前期試驗濟の人々

十九年三月	松浦さと	二十年三月	張こう
廿年十一月	榊　節	廿年十一月	設樂りう
同	大村のぶ	同	安中某
同	采畢房枝	同	間宮八重
同	藤井たか	廿一年三月	新名たけ
二十年三月	深ヶ谷某	同	杉立某
廿一年十月	水沼なみ	同	姓名不詳

此外現今濟生學會にて前期修業中の者凡廿名也。

○女子職業……男性の遊民

女子職業の問題も漸やく實際に盛ならんとす。府下に女子職業學校の起りたるは明治十九年九月なりしに僅かに二年餘の今日、既に左の如き卒業生を出せり、

裁縫科廿九名、編物科十四人、刺繡科六人、圖畫科二人。

吾人卒業式の當日行て參觀したるに、授業の進歩の速かなると實に驚ろくべく、其の製作したる品物の好く出來たると更らに驚ろくべし、今より二三年を經ば、年々一二百人の女工之れより卒業して、職業にて獨立生計する女子甚だ多くなるべし、何如に男性の遊民がた、何にとか感ぜらるゝ。

○髪きり

去九日佐々木政吉氏は、いよ〳〵髪切病のデモンストラチョンを東京醫學會にて開演せられたり、然し其の大意はすでに本誌に掲げたる丈けの事にして、尚ほ深き所ろを演述さる迄には至らざりき、然し次回には略ぼ見當の着たる理解を述べらるべき筈なりときく。

因に云ふ、右患者の毛はたゞに髪の毛のみならず、躰の毛も同様なるよし。只今の規定には先づ〳〵營養不足に在りとの見込なる趣き。

○婦人共愛會　先年以來當教會婦人兩三名が發起せられたる婦人共愛會は此度規則を改正し芝區二本榎頌榮女學校在米國女教師ミス、ウエスト氏の宅を事務所となし毎月晦日午后より集會し西洋裁縫編物等をなしミス、ウエスト、ミス、ケースの兩氏も補助せられ西洋裁縫編物等を教授し又聖書の說明等を爲し專ら慈善を勸めらる由にて此の程も手工によりて得られたる利益を芝慈惠醫院へ寄附せられたるよしなるが斯る淸潔なる集會の漸く偉大に趣かんとするは社會の爲に賀する處にして偏に貴社御誘導の致す處と欣喜の餘り記して以て貴社に報ず貴社幸に益々奮勵して常に婦人の兩翼と爲り我が國をして立田姫が織りなせる錦と美麗なる社會たらしめよ。(螢町教會員婦人共愛會贊成者某報)

○和歌山婦人會　去月十四日午后二時より和歌山岡東館に開かれたる同會は會員八十餘名其外高等小學校女子部生徒百六十餘名も參會せしが席上奥村尙柔、倉田績、五斗信吉、古屋綾子等諸氏の演說等ありて頗る盛會なりしと又た當日は松本和歌山縣知事も參會せられたる由以て同縣知事の縣治に汲々せらるゝを知るに足る吾人は斯る牧長の多からんことを希望するものなり。

○近江婦人慈善會　同會は去月二十、二十一の兩日を以て大津御藏町共樂亭に於て開設せり其景況の大略を記せば會長中井夫人を始め會員たる婦人は何れも熱心に斡旋して賣品を勸められたる由にて其重なる陳列品は毛糸編物、ハンカチーフ、審函、扇子等にして出品數千二三百品來會者二千餘人兩日賣上總金高は九百圓十五錢なりしと云ふ。

○雜報　舊女子師範學校の職員北條亮、秋山四郎、國分かく、永井いくの諸氏發起人と爲り去る四日上野公園八百膳に於て女學生の親睦會を開かれたる由○札幌北一條西皿女子職業學校は去月三十日燒失せり○信州上田女學校の生徒數名が主唱者にて今度上田婦人談話會を創立せり○盛岡婦人會は去月廿七日同地杜陵館に於て總集會を開き規則の改正役員の改撰を執行せし由にて會頭には石井厚子副會長には鳥海若菜子幹事には河本瓶、高野小仲、岡﨑貿の三子當撰せられたり○京都婦人慈善會にては基本金少きより今度京都の書畫家に揮毫を依賴し之を賣却して基本金に加へんと目下相談中なりと云ふ○淺草御北女學校は此度煉瓦二階造一棟を增築する由。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

外報

(此欄内自由に轉載を許す)

○加藤錦孃　日本の加藤錦孃は是迄サレムの師範校にて修業せられたるが此度ウエルスレー、カーレーヂユ入學せられたり(ウーマンス、ジヨウナル十月六日分)。

○家政敎科　倫敦のヘツドン孃は過る七年前より男女の小供に家政の敎授の必要なることを主張し其の敎育を菜園主義(キツチエン、ガーデン、システム)と稱し、人形の如き型を用ひて敎ゆるの趣向なるよし、倫敦の眞中に其學校を設け其の敎育を施さるゝ所ろ同府内の二校はすでに其主義を採用し、リード、ダブリン、其他スコツトランドの所々へ右の型を送り出すと近年漸次に增加するに至りたる由。

○學務委員投票　米國にては最早大抵の所ろにて學務委員を撰擧するの權を女性に與へたることとなるが、今年の撰擧に付きボストン府にて右權を受る爲に稅を拂ふものゝ二萬五千一百四十九人ワシントン府にては同じく二千九十人の由也。

●出版書目　先月中官報を以て廣告せられたる書籍の中にて女學に關するものを擧ぐれば左の如し

敎育金律	一册	著作者 發行者	森慶治郎 前川善兵衛	廣島縣 大坂府
聲麗餘波	一册	編輯者 發行者	鈴木重嶺 宇津木貞夫	東京
大八洲歌集	二册	編輯者 發行者	本居豐頴 魚住長胤	東京
修身敎育噺	一册	著作兼發行者	日置岩吉	大坂
尋常唱歌集	一册	著作者 發行者	吉田鉦濤 若山文三郎	名古屋
婦女の敎育	三册	著作者	濱本義太郎	東京
敎育學第二	一册	著作者 發行者	能勢榮 原亮三郎	東京
男女必讀 思ひのかけはし	一册	發行者	小林秀吉	東京
島津お政の履歴	一册	編輯兼發行者	吉田伊太郎	大坂
人情美談 野路の花	一册	發行者	菅原與吉	東京
小學女用文章	一册	編輯兼發行者	磯部太郎兵衛	東京
婦女錦 女子交際用文	一册	著作者 發行者	柾木正太郎 田中太右衛門	大坂

小供談

心悪しれば身を損す

或る所ろに狐がありました肴一疋盗みまして之を食へて河の邊へ參りまするとその食へて居る肴が下に映つて見へます然し狐は之を知りませんから熟ら〳〵と眺むれば之は扨て自分の口に食はへたるよりも大きいようなり爭そあれを取らふと思ふて其の口にしたるを離しまするも惜しむべし食はへたるも映つたるも諸共ゝ下に陷ちて水中に沒れて仕舞うた。

又或る狐が鷄を食はへて逃げて參ります主人は大ひに怒つて棒を持て追掛てコノ泥棒狐目が何處までても追つて行つて殺ろして仕舞うぞと言ひ乍ら尾いて來ます狐は何んの其樣な老ぼれに追附かれるものかと輕蔑し乍ら逃げて行くと鷄は食へられ乍らに申しまするはコレ狐どんモウ此うお前さんに食はへられゝばお前さんの者だのに盗棒呼わりされては殘念では無いか何んとか甘く答へてお遣なさいと言ふよぞ實にそうだと言つゝ狐は口を開らひて返答しやうとしまするとワハイ雞は甘くも口を離れて天高く飛んで行きました。

何んでも自分の心が淸くないと此の樣に己れの損になります若し自から安んじて慾張つたり左もない理屈を付やうなどゝせなければ狐と云ども此くの如き損には會ひませんでせう。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

大致正本居豐穎君題　大野定子女史作
佐々木弘綱大人校閲　原田鼎洲翁書

女用消息文

文案附百篇　美書挿入　全二冊　定價金五拾錢　郵送料金貳拾錢

此書ハ新年祝祭ヨリ四時時候ノ賀詞訪問等ヨリ日常雜事ノ往復贈答ニ用井ル普通ノ女用書狀ノ文案ヲ示シタルモノナリ又近年書狀ノ文體ニ舊來男女其趣ヲ異ニセルハ其謂ハレナシトノ世論モアレバ其過スベテ改良シテ而シテ事柄ト用語トハ婦人ニ本分ナル婉淑ノ體ヲ失ハシメズ且字體モ平易ナル行草平假名交リニ大ク書シタレバ文案ヲ求メ旁ラ又習字ノ手本トモナリテ兩得至便ノ最良書ナリ

發兌書肆　東京日本橋區通二町目十三番地　小林新兵衛

井上政共先生著

論理ノ新軌軸

全壹冊　定價三十錢

此書は東京及び大阪にて新聞記者たりし井上先生が活眼卓識を以て論理の蘊奥を極め世間在來の俗論僻說を破り別に一新軌軸を現はされたる者也故に書中尤も丁寧に此學と心理經濟法律學等の關係及び論理學の秘訣を記載したれば啻り論理の活用を知り得る耳ならず諸學科の主眼を悟るに最も恰好の良書也故に法律經濟哲學等の學科を修めんと欲するの士は一讀せずんばある可からず

發賣所　東京神田雉子町三十二番地　團々社書店

學婢雇入

望の者は履歴及び志願を申込むべし

小石川區小日向臺町一丁目十六番地　植田

新版 [illegible]

咬菜軒主人閲
佐久間孝先生著

[illegible]

西洋女美本全一冊定價金五十錢郵税金十二錢

[illegible]

發行所　東京日本橋區通一丁目十九番地　書林　大倉孫兵衛

小弟儀今春來腦患に罹り居候處追々甚敷到底繁劇地にて全治致し難きに付き一時神學校を辭し地方に退養候間此の段辱知諸姉に告ぐ

日本聖公會神學生

明治廿一年十一月

中野繁利

交詢案内（乙）

（催促する勿れ 郵券十錢送れ 委細に申來れ）

●雇はれたき方

七 裁縫 年齢廿三にして家内の手助けとならんが爲め内職に裁縫に雇はれ度きものあり華族様か町家ならば大家のかたき内にて寄宿ならば通いても宜しとのと其他ハンケチーフのふち縫の如きにても宜し

十三 教師 栃木縣女子師範學校の卒業生にて何處かの學校或は他の御内にて教授致し雇はれたきものあり可成くは都町か縣廳所在を望む

一九 召使 裁縫の教授を專に其他女子學校等監督御稽古所等の者に雇はれたし

二〇 裁縫 年齢十四五才にて華族様か或官員方の御方之内へ小間使に雇はれたし最も餘暇に御教授けくだされば給料は不申受

●喜びのめぐみ

十 教師 乙第二十二號は甲第十號と相談調ひたり

十一 助教 乙第二十三號は築地の某小學校へ雇はれたり

●通信女學講義錄

巖本安貴

通信女學講義錄は毎月一冊發兌にて大抵六七十枚づゝあり卧親又は妻君方が家に在りて女學の一と通りを學ぶの工夫なれば毎月其一冊を讀もて行き二三年を經れば和學理學地理歴史及び子育方、女子生理、家內理學、經濟學などの一斑を承知すべし。之は一冊二十錢にて半年前金一圓一年前金二圓也。當十一月にて既に第十四卷を發兌したるが、第十三號よりは讀者大に增加したるより隨つて第一卷より第十二卷迄凡そ一年分は都合五十部ほど餘まり居るに付之を賣拂ふべし即はち其定價を**十二冊**（從一卷至十二）**一圓**及び**廿四錢**（郵税）にて賣拂ふべし尤も五十部より外は即はち第十四卷まで揃ろい居るに減じて付き定價通りならでは賣拂ひ不申候、よつて右御入用の方は至急御申込ありたく候事

京橋區日吉町八番地

女學雜誌社

發兌					
九月。	一日	八日	十五日	廿二日	廿九日
十月。	六日	十三日	二十日	廿七日	
十一月。	三日	十日	十七日	廿四日	
十二月。	一日	八日	十五日	廿二日	廿九日

定價			
一冊。五錢	郵税。一錢	（但府内無郵税）	
十冊。四十八錢	郵税。十錢	（同前）	
半年分	一圓十七錢	府外は	一圓四十三錢
一年分	二圓卅四錢	府外は	二圓八十六錢

廣告

一行（廿七字詰）一回 前金拾錢
同 二回以上 一割引
同 三回以上 二割引
十行以上二十行以上三割引。四十行以上は上半割引
六ヶ月以上は不道德なる事物の廣告は謝絶す有益なる物品の廣告は引受くべし
女學に關係ある書籍は一部を寄送を乞ひ相當の廣告をなし且つ本誌に批評すべし

特別廣告は婦女に關する協會會合等の記錄を揭ぐるものにて一切無料とす但し紙面半頁以上に亘るものは半頁分毎に十部附の割合に右雜誌代金を要す

女學雜誌賣捌所

東京神田區淡路町段々堂○同表神保町萬[illegible]堂○同神田區雉子町圓々社○同神田區佐柄木町東海堂○同日本橋區新右衛門町[illegible]明堂○同京橋區木挽町[illegible]丁目[illegible]○同本郷區春木町三丁目[illegible]○同本郷區春木町四丁目[illegible]○同[illegible]○京都三條通東洞院西へ入クリスチアンボ[illegible]○[illegible]雜誌部○宮城縣仙台[illegible]○[illegible]五番地[illegible]○[illegible]松江新町[illegible]○相州小田原[illegible]○[illegible]高知本町二丁目[illegible]堂○熊本文明堂

明治二十一年十一月十五日印刷
明治二十一年十一月十七日出版

發行所 東京京橋區日吉町八番地 **女學雜誌社**

編輯兼發行者 東京京橋區日吉町八番地寄留 巖本善治

印刷者 東京芝區源助町十一番地寄留 森田豐

WOMAN'S MAGAZINE.

"JOGAKU ZASSHI."

Price 5 *sen*. By post *yen* 1.43 six months, *yen* 2.86 per annum, in advance.

Edited and Published by Y. H. Iwamoto, at The Jogaku Zasshi Office, No. 8 HIYOSHICHŌ, SHINBASHI, Tôkyô, Japan.

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

遞信省認可

交詢案内

（催促する勿れ 郵券十錢送れ 委細に申來れ）

●雇はれたき方（乙）

七 裁縫 年齢廿三にして家内の手助けとならんが爲め内職に裁縫に雇はれ度き者あり華族樣か町家ならば大家のかたき内にて築地邊ならば通いても宜しとのこと其他ハンケチーフのふち縫の如きにても宜し

十三 教師 栃木縣女子師範學校の卒業生にて何處かの學校或は他の御内にても教授に雇はれたきものあり可成くは麴町か駿河台邊を望む

一九 召使 裁縫の教授を専にし其他女子學校等監督寄宿舎等の者に雇れたし

二〇 裁縫 年齢十四五才にて華族樣か或官員方の御方之内ヨ小間使に雇はれたし晝も餘暇に裁縫授けくだされば給料は不申受

●喜びのめぐみ

十 教師 乙第二十二號は甲第十號と相談調ひたり

十一 助教 乙第二十三號は築地の某小學校へ雇はれたり

●通信女學講義錄

殘本安賣

通信女學講義錄は毎月一冊發兌にて大抵六七十枚づゝあり ば親又は妻君方が家に在りて女學の一と通りを學ぶの工夫なれば毎月其一冊を讀むて行き二三年を經れば和學理學地理歷史及び子育方、女子生理、家内理學、經濟學などの一斑を承知すべし。之は一冊二十錢にて半年前金一圓一年前金二圓也。當十一月にて既に第十四卷を發兌したるが、第十三號よりは讀者大に增加したるより隨つて第一卷より第十二卷迄凡そ一年分は都合五十部ほど餘まり居るに付之を賣拂ふべし即はち其定價を從一卷至十二 十二冊一圓及び郵稅廿四錢にて賣拂減じて尤も五十部より外は即はち第十四卷まで揃ろい居るにふべし付き定價通りならでは賣拂ひ不申候、よつて右御入用の方は至急御申込ありたく候事

京橋區日吉町八番地

女學雜誌社

發兌					
九月。	一日	八日	十五日	廿二日	廿九日
十月。	六日	十三日	二十日	廿七日	
十一月。	三日	十日	十七日	廿四日	
十二月。	一日	八日	十五日	廿二日	廿九日

定價			
一册。五錢	郵稅。一錢	（但府内無郵稅）	
十册。四十八錢	郵稅。十錢	（同前）	
半年分	一圓十七錢	府外は	一圓四十三錢
一年分	二圓卅四錢	府外は	二圓八十六錢

廣告

一行（廿七字詰）一回 前金拾錢
同 三回以上 一割引
同 六回以上 二割引
十行以上一割引。二十行以上二割引。四十行以上三割
引。但し不道德なる事物の廣告は謝絕す有益なる事
物の廣告は社議の上無代價にて引受く女學關係の書
籍は一部の寄送を乞ひ相當の廣告をなし且つ本誌に
批評すべし

特別廣告は婦女に關する協會合等の記錄を揭ぐるものにて一切無料とす但し紙面半頁分の廣告を揭載するに雜誌十部の注文を要し以上半頁分毎に十部增の割合を定む

WOMAN'S MAGAZINE.

"JOGAKU ZASSHI."

Price 5 *sen*. By post *yen* 1.43 six months, *yen* 2.86 per annum, in advance.

Edited and Published by Y. H. Iwamoto, at The Jogaku Zasshi Office, No. 8 HIYOSHICHŌ, SHINBASHI, Tōkyō, Japan.

女學雜誌賣捌所

東京神田區淡路町段々堂○同芝西久保櫻川町萬春堂○同神山區雄子町國々社支店○同神田區佐柄木町東海堂○同日本橋區新葭町貢明堂○同京橋區木挽町堂丁目萬亨堂○同本鄉區元富士町盛春堂○同本鄉區谷木町二丁目所明堂○同本鄉四丁目文叢堂○同京日吉町角田上町直太田町三丁目○同月堂○同本町六丁目日の出居樓滋都四條通小橋西へ入同眞光堂○同三條下五東洞院西へ入クリスチアンボ｜ド○○坂備後町四丁目圖島支店滋仙國○伊勢安雜誌部○宮城縣仙京大町木村文助○尼張國ゞ古屋木號町版書分出張國丁江地伊勢協雜誌堂○成島縣大手町一丁目星速社○長崎洲居町與○州○根西內大江新町々堂○相州小田原縁明石瀧堂○上州高崎田町修平堂○土佐國高知本町三丁目榮園堂○熊本文明堂

明治二十一年十一月十五日印刷
明治二十一年十一月十七日出版

發行所 東京京橋區日吉町八番地 女學雜誌社

編輯兼發行者 東京京橋區日吉町八番地寄留 巖本善治

印刷者 東京芝區源助町十一番地寄留 森田豐